

(1) 小学校国語

② 目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事を書くこと【B1三】

1  
東小学校の新聞委員会の木村さんたちは、月ごとの学校の様子を新聞にまとめて地域の皆さんに伝えています。木村さんたちは、次の「ふれあい新聞（六月号）」を書いていました。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【ふれあい新聞（六月号）】

**ふれあい**

五月十一日（火）、東小学校において、地いきの皆さんやおばあさんなどふれあいの交流を行いました。

交流は、かにも話をしたり、かた六年生の進行もんだりして、交流をもと「おま」深めることができました。

五「けん五」 あやどりのコーナーに参「あやどり」のコーナーは、「ほうさの形に分かれて、作り方をやさしく教えていっしょに遊ばせました。」

おじいさんやおばあさんや、遊び方や上手にできるコツを教えたので、楽しかったです。

あやどりでほうきをつくったよ

子どものころ好きだった遊び

- ・おにごっこ
- ・かくれんぼ
- ・あやどり
- ・フムとび
- ・おすまじ
- ・こんまり
- ・けん五
- など

【編集後記】

多くの村おじいさんやおばあさんが、あやどりに参加してくださって、とてもうれしかったです。

昔の遊びをしながら、いろいろお話する機会が、また交流できることを楽しみにしています。

（木村）

【中田とよさんへのインタビューの様子】

（話した内容）

あやどりのコーナーに参加してよかったわ。それはね、一年生のみんなに様々な形を教えてあげたら喜んでくれたからなの。みなさんも準備が大変だったことでしょうね。町で会ったときにはいつでも声をかけてください。今度の案内も楽しみにしていますね。

（表情や声の様子）

- ・目を細めている
- ・明るい声

（条件）

○ \* 部 についての理由が分かる言葉を、（話した内容）の中から「」を使って取り出し、その言葉と（表情や声の様子）の中の内容を合わせて、「一文で書くこと。」

○ 書き出しに続けて、四十文字以上、七十文字以内で書くこと。なお、書き出しの言葉は字数にふくむ。

※左の原稿用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。◆の印から書きましょう。どちらかで行き交えなくて、続けて書きましょう。

また、参加された中田とよさんは、

70字

40字

〈解答類型・反応率と課題〉

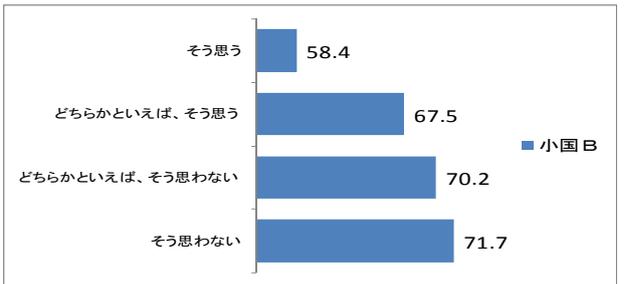
- （正答の条件）次の条件を満たして解答している。
- ①以下の内容を合わせて書いている
    - a 「（一年生のみんなに）様々な形を教えてあげたら喜んでくれた」
    - b 目を細めながら明るい声
 ※「目を細めている」「明るい声」のいずれか一方のみを取り上げているものも含む。
  - ②一文で書いている。
  - ③書き出しの言葉に続けて、40文字以上、70文字以内で書いている。

	解答類型	全国（公立）	県（公立）	自校
1	◎ 条件① a、bの両方と、条件②、③を満たしているもの	34.7	33.6	
2	条件① a、bの両方と、条件②は満たしているが、条件③は満たしていないもの	0.0	0.0	
3	条件① a、bの両方を満たしているが、条件②は満たしていないもの（条件③を満たしているかどうかは不問）	3.0	3.3	
4	条件① a または b のいずれか一方を満たしているもの（条件②、③を満たしているかどうかは不問）	50.2	51.2	
9	上記以外の解答	8.1	7.9	
0	無解答	4.0	3.9	

○解答類型4は、条件① a の——部の理由として、「（一年生のみんなに）様々な形を教えてあげたら喜んでくれた」、または、条件① b の「目を細めながら明るい声」のいずれか一方のみの解答であり、複数の情報を的確に関連付けてまとめることができていない。

〈関連する児童質問紙・回答別の平均正答率〉

質問項目	400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか（肯定的回答）		
全国（公立）	県（公立）	自校	
60.1	60.5		



〈今後の指導に向けて〉 **制限された字数の中で、自分の考えを適切に表現する継続的な取組を！**

制限された字数の中で、自分の考えを適切に表現するためには、「条件に合わせて書く力」、「文章を短くまとめる力」を十分身に付けることが重要である。これらの力を育てるには、家庭学習と授業とを関連させた「条件作文」の継続的な取組が大切であり、学習タイムでの活用も有効である。各学年において、その学年に合わせた「条件作文」の指導が行えるように、家庭学習・学習タイムと授業の両面において、1年生から6年生までの見通しを持った指導計画が必要である。

【例1 家庭学習・学習タイム等における「条件作文」(与えられた条件に合わせて書く作文)の指導計画例】

1年生	身近な事物を簡単に説明する文章などを字数制限を行って書く。 (例)「妖怪ウォッチ」がどんな物語かを(100~120)字で書こう。
2年生	経験したことを報告する文章や身近な事物を簡単に説明する文章などを字数制限を行って書く。 (例)昨日見たテレビでおもしろかった番組を思い出して、どこがおもしろかったかを(80~100)字で書こう。
3年生	ある事柄について調べ、調べた内容を説明する文章を字数制限を行って書く。 (例)スーパーマーケットの工夫を調べ、(100~150)字で書こう。 ※社会科の調べ学習と関連
4年生	ある事柄について調べ、調べた内容を集めた情報(文章や資料)の中の言葉を使って、説明する文章を字数制限を行って書く。 (例)ゴミ処理センターや浄水場の工夫を社会の教科書の言葉を使って、書こう。 一つの工夫については100字以内で書こう。※社会科の調べ学習と関連
5年生	新聞の中から興味のある記事を選び、文章を引用しながら記事の内容を説明した文章を(100~150字)で書く。
6年生	新聞の中から興味のある記事を選び、文章を引用しながら記事の内容を一文にまとめて80字以内で書く。

以上のようなことを繰り返し指導する。また、社会科だけでなくさまざまな教科等とも関連させていくことにより培われた書く力を効果的に活用していくことができる。

【例2 授業における「条件作文」活用例 「新聞を作ろう」(光村図書4年上)】

主に指導する活動	記事の下書きをし、わりつけを考える。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>下書きを行う段階において、集めた情報の中から必要なものを選び、その内容を決められた長さ(100~150字)の中でよりわかりやすくまとめていく学習を行う。*一項目でよい。</li> <li>グループなどで下書きを読み合い、分かりやすい書き方を伝え合うことにより、効果的に伝えるために必要な工夫を自分たちの言葉でまとめ、意識させる。</li> </ul>

ポイント

- ・ 学年に合わせた条件作文を書く活動を家庭学習・学習タイムと授業の両面で充実させる。
- ・ 多くの情報から必要なものを選び、要点を押さえた短い文章を書かせる。
- ・ 授業における調べ学習のまとめに条件作文を取り入れるなど、他教科等との関連を図る取組を充実させる。